

(氏名) 矢野 修 一	(学部) 経済学部
1 重要事項	
<p>◇論文； 『地域政策研究』第25巻第3号（西野寿章教授退職記念号）に『現実主義』に関する一考察—2020年代の『現実』のなかで』を寄稿した（43-60頁）。</p> <p>◇翻訳； Ian Goldin, <i>Rescue: From Global Crisis to a Better World</i>, London: Sceptre, 2021. を邦訳し、出版した（イアン・ゴールドイン著／矢野修一訳『未来救済宣言—グローバル危機を越えて』白水社、2022年）。翻訳書は、『週刊エコノミスト』（2022年10月14日号）や『週刊東洋経済』（2022年12月27日号）で書評された。</p> <p>◇高経大学生と高経附生徒による「高大コラボゼミ」の企画および指導； 日本企業のケーススタディを柱とし、2010年度から13年間続く「高大コラボゼミ」を企画し、各種指導を行った。経営支援NPOクラブの支援を仰ぎつつ、学生・高校生による富士フィルム、サトーホールディングス、テルモ、全農などの企業・団体のオンライン訪問・インタビューをアレンジし、成果発表会（高経大731教室、9月6日）につなげた。</p> <p>◇『高大コラボゼミ 2022年度成果報告書』の編集補助； 2022年度の高大コラボゼミに取り組んだ大学生の感想・コメントをとりまとめ、成果報告書の編集を補助した。報告書は、高崎市議会議員を含め、関係各方面に配布された。</p> <p>◇高崎経済大学矢野ゼミナール卒業論文集『経済学研究年報』第30号（2023年3月刊）の監修および編集； 1994年3月の創刊以来、『経済学研究年報』の監修・編集を継続。2022年度も卒業論文の執筆を指導し、卒業論文集を完成させた。印刷・製本された卒業論文集は、本人のほか、保護者やゼミの後輩らに配付された。</p>	
2 その他の事項	
<p>◇高崎経済大学地域科学研究所「公開連携講座」講師； 2022年3月に出版されたブックレットを使いながら、一般市民向けに「高崎からのグローバル人材育成」と題する講演を行った（6月18日、高崎市中央公民館）。</p> <p>◇京都大学再生可能エネルギー講座第6回合同研究会でのコメント； 高崎経済大学・西野寿章教授の報告「再生可能エネルギーの地域的浸透を考える」に対し、コメントを行い、議論に参加した（11月28日、京都大学）。</p> <p>◇アジア・コンセンサス研究会での報告； 20年以上にわたり継続している他大学研究者との「アジア・コンセンサス研究会」において、上掲論文（『現実主義』に関する一考察—2020年代の『現実』のなかで』の内容を報告し、討論を行った（2月4日、明治大学）。</p> <p>◇経済理論学会「政治経済学の21世紀的構想」部会主催の研究会における報告； ゴールドイン『未来救済宣言』の合評会において基調報告を行い、対面ならびにオンラインの参加者と議論を行った（3月11日、東京経済大学）。</p> <p>◇高崎経済大学経済学会の運営； 学会長として、『INTRO2023』の編集、懸賞論文大会などの各業務を所掌するとともに、講師を招き、下記の学術講演会を主宰した。 *オーストラリア国立大学名誉教授・武田真彦氏「ロシアに対する金融制裁の実効</p>	

性」(10月21日、高経大図書館ホール)

\* 関西大学経済学部教授・宇都宮浄人氏「鉄道開業150年・日本の課題—新時代のモビリティ政策とは」(2月10日、高経大図書館ホール)

◇ 地域科学研究所研究プロジェクト「日本における『持続可能な地域』実現の展望と課題—ガバナンスと域内経済循環の観点を中心に」の運営；

上記研究プロジェクト(通称 SuCoP)を主宰した。下記のとおり、オンライン研究会・公開講演会を実施し、研究を進めるとともに、本学教職員・学生・卒業生、高経附教員・生徒、信組役員、JA 幹部、一般市民など、多様な主体の交流を図った。

\* 京都大学名誉教授／公益社団法人国際経済労働研究所所長・本山美彦氏「ロシアによるウクライナ侵攻から学ぶべき課題—農業自給率を高める」(7月2日、オンライン研究会)

\* 元・FS グリーンネット社長／元・埼玉県障害者雇用総合サポートセンター企業支援アドバイザー・杉山睦郎氏「障害者雇用の現状と課題」(7月30日、オンライン研究会)

\* (株) 元気アップつちゆ顧問・加藤勝一氏「東日本大震災と原発事故からの復興再生まちづくり—土湯温泉の元気アップ」(11月22日、公開講演会)

\* 三重大学名誉教授／京都大学学術情報メディアセンター研究員・石田正昭氏「協同組合の現状と展望—持続可能な地域の実現に向けて」(12月6日、公開講演会)

\* 高崎経済大学名誉教授・戸所隆氏「持続的発展をめざして50年間取り組んだアーバンデザイン—滋賀県草津市を中心に—」(3月9日、公開講演会)

\* 高崎経済大学教授・西野寿章氏「地域をみつめて35年—語り継ぐべき人々の生業と歴史—」(3月18日、公開講演会)

◇ 高校生向け講演・講義等；

高崎市立高崎経済大学附属高校2年(新年度3年文系オナークラス)生向けに、高大コラボゼミのオリエンテーションを行った(3月20日、高経附)。

◇ 学部ゼミ生向け就活サポート事業；

17年続く、卒業生による恒例の就活サポート事業(エントリーシート作成指導や模擬面接など)を4年ぶりに対面で開催した(2月17日、東京・上野)。

◇ 群馬県立前橋女子高校スーパーサイエンスハイスクール(SSH)運営指導委員；

運営指導委員会(9月14日、1月21日)、SSHポスター発表会(1月21日、3月3日)などに参加し、指導・助言や意見交換を行った。

◇ ポシビリズム研究会主宰；

1998年から続くポシビリズム研究会(ゼミ卒業生との研究交流、共同研究を目的とする)は実質的には開店休業状態だったが、大分大学との「世界経済論」合同ゼミ(12月3日、オンライン開催)の機会を利用し、メンバーと意見交換等を行った。

### 3 次年度以降の計画・抱負

新型コロナのパンデミックに見舞われた世界の状況を多角的に分析するとともに、危機打開に向けて多国間協力を訴えたゴールディンの単著を邦訳・出版したことによって、今年度は多方面での議論に参加し、有意義な成果が得られた。世界情勢はますます混迷しているが、多国間協力の意義と可能性に関する研究をさらに進める所存である。教育面では、充実したゼミ活動を中心に、次世代を担う若者に向けて「3つの出会い」(「人との出会い」「ものの見方・考え方との出会い」「新たな自分との出会い」)の場を今後も提供し続ける。

定年まであと3年。33年目のシーズンを研究面でも教育面でも充実したものにしたい。

